

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	大町児童デイサービスセンターひかり(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童に寄り添い、表情や行動の小さな変化を丁寧に捉え、思いを肯定的に受けとめる支援を行っている。選択や決定の機会を通して自己肯定感を育み、家庭と連携した一貫した支援につなげている。	・児童一人ひとりに寄り添い、同じ目線に立って関わることで、表情や行動、言葉の小さな変化を丁寧に観察し、思いや気持ちの芽生えを逃さない支援を行っている。 児童の表出を肯定的に受けとめ、選択や決定の機会を日常の中で積み重ねることで、「自分の思いを伝えてよい」という安心感と自己肯定感の育ちを支えている。	・児童の意思形成や思いの表出をよりの確に捉えるため、日々の関わりを振り返り、職員間で支援の視点を共有する。支援記録や個別支援計画へ反映し、家庭とも連携しながら一貫した支援の充実を図る。
2	・本人主体の支援を行うため、生活全般や現在の姿を把握することを大切に、多角的な視点からアセスメントを実施している。日常の様子や関わりの中での行動、気持ちの表出、環境との相互作用を丁寧に捉え、表面的な行動だけで判断しないことを意識している。	・児童本人の様子に加え、家庭や関係機関からの情報も踏まえ、複数の視点を取り入れたアセスメントを行っている。また、経過や変化を継続的に確認し、その時点の「できていること」「困りごと」「背景」を整理することで、本人の思いや強みを活かした支援内容につなげている。	・職員間での情報共有と振り返りを通してアセスメントの視点を統一し、結果を個別支援計画に反映する。家庭や関係機関との連携を深め、本人主体の支援の充実を図る。
3	・保護者が安心してお子さんを預けられるよう、日々の関わりや支援の様子を丁寧に共有し、思いや不安に寄り添った関係づくりを行っている。家庭との信頼関係を大切に、連携した支援につなげている。	・保護者が安心してお子さんを預けることができるよう、日々の関わりや支援の様子を丁寧に伝え、保護者の思いや不安を受けとめる姿勢を大切にしている。 小さな変化や成長も共有し、できていることを具体的に伝えることで、保護者と喜びを分かち合いながら信頼関係の構築につなげている。	・保護者との対話や情報共有を継続し、不安や思いを早期に把握する。家庭との連携を深め、安心して利用できる支援体制の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動場所の確保に課題があり、児童の活動内容や特性に応じた環境設定が十分に行えない場面が見られる。	・児童の活動内容や特性に対する活動場所の設定、ならびに職員配置の検討が不十分であったことによる設定ミスが要因と考えられる。	・利用児童の特性や活動内容に応じて、事前に活動場所と支援者配置を整理・確認し、状況に応じた柔軟な人員配置を行う。振り返りを通して環境設定や配置の妥当性を確認し、支援に反映させる。
2	・移行支援および地域支援において、支援が断片的になりやすく、継続性のある支援につながりにくい点が課題である。	・移行期や引き継ぎ場面における情報共有が十分に実践的でなく、支援内容や関わり方が関係機関間で共有しきれていないことが要因と考えられる。	・移行期における支援の継続性を高めるため、情報提供シートを活用し、児童の特性や有効な支援方法、配慮点を整理して関係機関へ共有する。
3	・職員のタスク管理に課題があり、業務の優先順位や目標設定が十分に整理されていない状況が見られる。	・業務ごとの目標設定や進捗確認が不十分であったことに加え、チーム内での情報共有や認識のすり合わせが十分に行われていなかったことが要因と考えられる。	・業務内容や役割分担を整理し、職員一人ひとりが見通しをもって業務に取り組めるよう、タスク管理と目標設定の仕組みを整える。 チーム内のコミュニケーションを強化し、業務の偏りや抜けを防ぎ、組織としての支援力向上を図る。